

気候情報

2010年12月の日本の天候

- 北・東日本の月平均気温はかなり高かった
- 北日本から西日本にかけては月降水量がかなり多かった
- 下旬中頃から日本海側中心に大雪となった

12月の天気概況

下旬はじめまでは冬型の気圧配置は長続きせず、低気圧が短い周期で通過した。北・東日本では、12月としては暖かい空気に覆われる日が多く、月平均気温がかなり高かった。天気は、北日本では曇りや雨または雪の日が多く、東・西日本と沖縄・奄美ではおおむね数日の周期で変わった。北日本から西日本にかけては月降水量がかなり多く、北日本太平洋側では1946年以降で12月として最も多かった。下旬後半は日本の上空には次々と強い寒気が南下し、25日は北日本日本海側を中心に、31日は西日本日本海側を中心に大雪となり、記録的な積雪となるところがあった。また、31日は低気圧の影響で岩手県など北日本太平洋側でも内陸を中心に大雪となった。

上旬：東・西日本と沖縄・奄美では、低気圧や気圧の谷が数日の周期で通過し、通過後は移動性高気圧に覆われた。天気はおおむね数日の周期で変わり、晴れの日が多かった。一方、北日本では、低気圧や気圧の谷の影響を受ける日が多く、曇りや雨または雪の日が多かった。2～3日は前線を伴った低気圧が本州の日本海沿岸を発達しながら北上したため、全国的に天気が崩れ、太平洋側を中心に大雨となった。

中旬：低気圧が短い周期で日本付近を通過したため、ほぼ全国的に曇りや雨または雪の日が多かった。中頃は一時的に強い寒気が南下し、山形県では大雪となり、西日本では各地で初雪を観測した。

下旬：21～23日は、低気圧が本州の南岸沿いを進み、発達しながら三陸沿岸を北上した。このため全国的に天気が崩れ、東北太平洋側を中心に大雨となり、北海道太平洋側では大雪となった。24日以降は冬型の気圧配置が続き、日本海側では雪や雨となり、太平洋側では東日本を中心に晴れる日が多かった。日本の上空には次々と強い寒気が南下し、25日は北日本日本海側を中心に、31日は西日本日本海側を中心に大雪となり、記録的な積雪となるところがあった。また、31日は低気圧の影響で岩手県など北日本太平洋側でも内陸を中心に大雪となった。各地で交通障害や停電、なだれなどの被害が発生した。

12月の気候統計

月平均気温：北日本から東日本にかけてかなり高く、多くの地点で平年を1.0℃以上上回り、2.0℃以上上回ったところもあった。一方、沖縄・奄美では低く、西日本では平年並だった。

月降水量：北日本から西日本にかけてかなり多かった。特に北日本から東日本にかけての太平洋側では、平年の300%を上回ったところが多かった。一方、沖縄・奄美では少なかった。

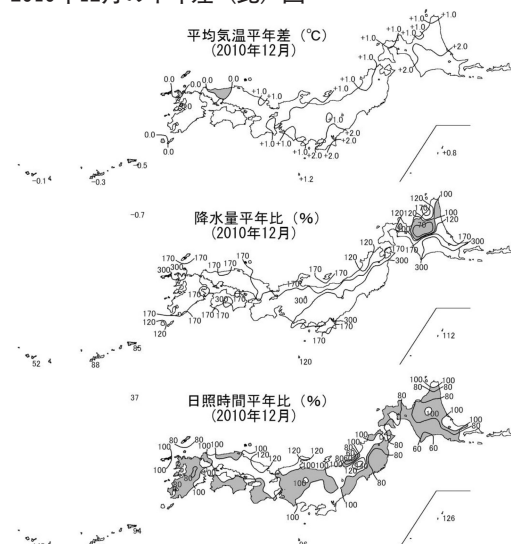
月間日照時間：東日本太平洋側と沖縄・奄美で多かった。一方、北日本太平洋側ではかなり少なかった。北日本から東日本にかけての日本海側と西日本では、平年並だった。

(気象庁観測部統計室)

12月の記録(1位更新のみ)

- ・月平均気温高い方から(℃)
館山 10.6 千葉 10.2
- ・月降水量多い方から(mm)
帯広 145.5 仙台 250.0 松江 269.5
など12地点
- ・月間日照時間少ない方から(時間)
苫小牧 76.4 広尾 77.8 盛岡 69.0
- ・降雪の深さ月合計多い方から(cm)
広尾 158 鹿児島 25
- ・月最深積雪大きい方から(cm)
広尾 94 若松 115 米子 76
鹿児島 22 など7地点

2010年12月の平年差(比)図



注) 陰影の部分は、平年より低い(少ない)地域を示す。